

編集後記

記録的な猛暑と原発稼働休止に伴う節電でどうなるかと心配された夏も終わり、秋の気配を感じる間もなく、季節外れの中国での大雪、バクダン低気圧による北海道での大規模停電という異常気象の厳しい冬の到来。今年もあと1月足らずを残すところとなりましたが、年々1年たつのが早いと感じるのは年のせいでしょうか？

さて、我々の世代の年末年始の恒例行事といえば、紅白歌合戦、日本レコード大賞等のテレビ番組と駅伝、ラグビー日本選手権、高校サッカー等のスポーツ観戦、なかでも毎年1月2日と3日にかけ行われる大学の名誉と伝統をかけ10人で「襷」をつなぐ「箱根駅伝」のファンは多いのではないのでしょうか。駅伝は、各走者が走る距離、総距離、区間数、性別等の組み合わせは大会により様々で、国際陸連が定める国際レースの基準では男女別にフルマラソンと同じ42.195Kmを6区間（5、10、5、10、5、7.195Km）で走ることが基本とのこと。新年に行われる全日本実業団対抗駅伝は7区間100Km、箱根駅伝は往路5区間108Km・復路5区間109.9Km、高校駅伝は42.195Kmを7区間で、中学駅伝は6区間18Km、女子においては、大学駅伝は6区間38.6Km、高校駅伝は6区間21.097Km、中学駅伝は5区間12Kmとされ男子より若干距離・区間が少なくなっているらしい。ちなみに、10月から翌年の3月まで実に17大会が開催されるとのこと知っていましたか。

走るということの関連で、先日、NHKの「日本アルプス大縦断レース」という特別番組を観ました。日本海の富山湾から太平洋の駿河湾まで北アルプス（剣岳、槍ヶ岳）、中央アルプス（駒ヶ岳）、南アルプス（仙丈岳）の3000m級の山々を8日以内で富士登山7回分の27,000mの高低差、マラソン10回分の415Kmを走覇するというとんでもないレースである。28人の超人が着替えや簡易テント等を背負い、山小屋などで食料や水を調達しながらレースを進める。参加条件は、フルマラソン3時間20分以内、2000m級以上の場所でのビバーク経験等の露営技術が必要とされ、競技ルールは、所定の期日と時間までに到達しないと失格となる関門が4カ所あり、宿泊はすべて露営、必要な装備類及び食料は各自準備し自ら背負う、物品の差し入れ、荷物運搬等のサポートは一切禁止等厳格きわまりない。レースは、静岡県の実役消防士が2年連続で5日間と6時間24分で優勝、アルプスの険しい山々を平均睡眠時間2時間ほどで1日80Km走するという想像できない過酷なペースである。賞品や賞金が一切でないのに、途中の悪天候や体調の変化等次々とトラブルに襲われてもひたすらゴールを目指す姿には感動以外のなにものでもなく、涙をのんでリタイヤする姿も山を知り尽くした勇気ある苦渋の決断に思わず胸が熱くなる思いである。所定時間に関門通過という厳格なルールに泣き、失格となった選手がそれでもひたすらゴールを目指す姿に感動せずにはいられない。その選手によれば自分自身の限界への挑戦であり、次回もまた研鑽を積んで挑戦するとのこと、このエネルギーはどこから来るのであろうか？とかく辛いことはなるべく避けて通りたいと考える我々凡人にとっては想像できないことである。

全島が山岳地帯であり登山人口が100万人以上といわれている台湾、「台湾山岳縦断レース」が開催される日も近いのでは。また、台湾には、富士山(3776m)を超える玉山(3952m：日本統治時代のニイタカヤマ)や雪山(3886m)をはじめ3000m以上の山が258座あり、日本の「百名山」に相当する「台湾百岳」のすべてが3000m以上の山々であるということ知っていました？

（経理部次長 高橋 準市）